

【表紙】  
【提出書類】 有価証券届出書の訂正届出書  
【提出先】 関東財務局長  
【提出日】 平成27年8月18日  
【発行者名】 インベスコ・アセット・マネジメント株式会社  
【代表者の役職氏名】 代表取締役社長兼CEO 佐藤 秀樹  
【本店の所在の場所】 東京都港区六本木六丁目10番1号六本木ヒルズ森タワー14階  
【事務連絡者氏名】 森下 泰幸  
【電話番号】 (03) 6447 - 3086  
【届出の対象とした募集（売出）  
内国投資信託受益証券に係るファ  
ンドの名称】 インベスコ プレミア・プラス・ファンド  
【届出の対象とした募集（売出）  
内国投資信託受益証券の金額】 当初申込期間：300億円を上限とします。  
継続申込期間：1兆円を上限とします。  
【縦覧に供する場所】 該当事項はありません。

## 1【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

平成26年10月31日付をもって提出した有価証券届出書（平成26年12月8日、平成27年1月20日、平成27年2月4日および平成27年6月19日に訂正届出書にて訂正済み。）の記載事項について、本日付の有価証券報告書の提出に伴い関係情報を更新するため、また記載事項の一部に訂正すべき事項があるため、本訂正届出書を提出するものです。

## 2【訂正の内容】

下線部分は訂正箇所を示します。

## 第二部 ファンド情報

### 第1 ファンドの状況

#### 1 ファンドの性格

##### (1) ファンドの目的及び基本的性格

ファンドの仕組み

< 訂正前 >

（前略）

\* ファンドが投資対象とする投資信託証券およびマザーファンドが投資対象とする投資信託証券は、ファンドの設定日現在のものであり、委託会社の判断により今後変更となることがあります。

< 訂正後 >

（前略）

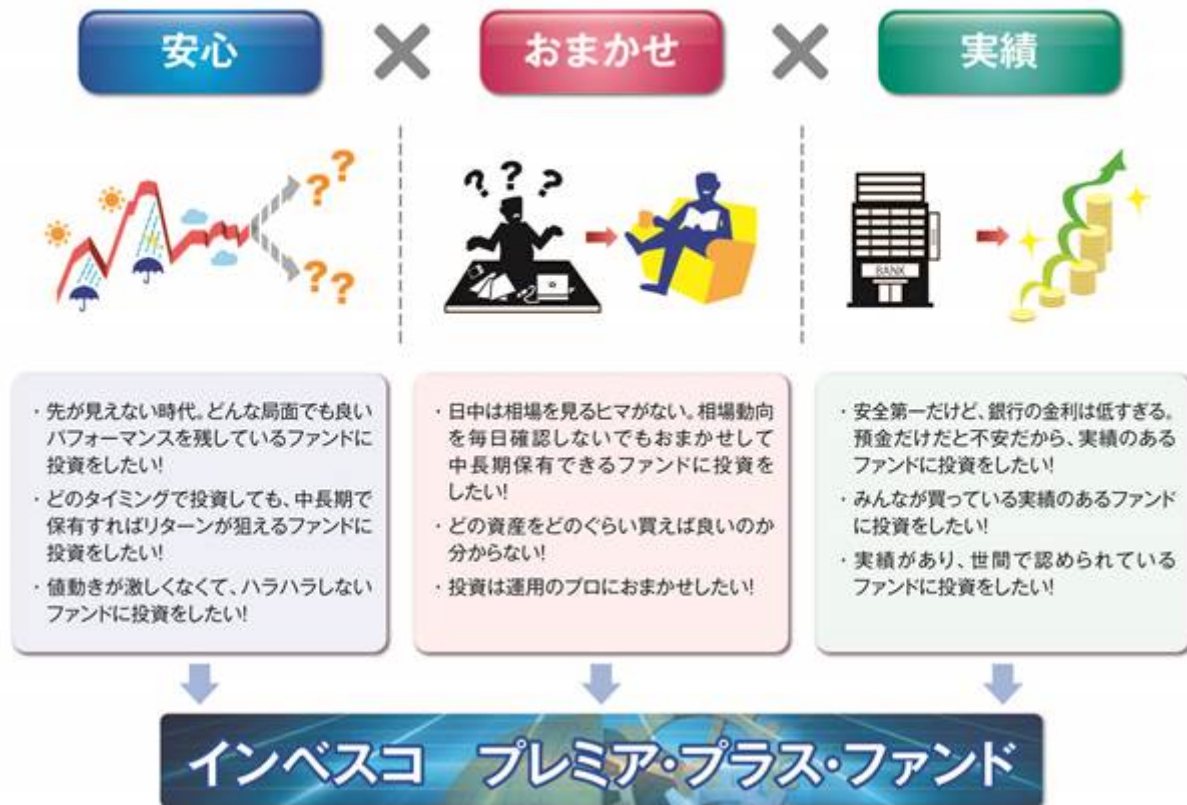
\* ファンドが投資対象とする投資信託証券およびマザーファンドが投資対象とする投資信託証券は、平成27年6月末現在のものであり、委託会社の判断により今後変更となることがあります。

ファンドのポイント

ファンドのポイントについては、該当事項が以下の内容に更新されます。

**ファンドのポイント**

「安心しておまかせできる実績あるファンドに投資したい!」という投資家のニーズにお応えすることを目指します!



### 安心

**債券並みのリスクであらゆる経済局面において安定したリターンを獲得を目指します。\*1**

- 目標リターン： 円短期金利+6.0% (年率)
- 目標リスク： 8.0% (標準偏差、年率) ※市場環境に合わせ、±2.0%程度調整します。
- 為替は円ヘッジを行います。

### おまかせ

**運用のプロにおまかせ。あらゆる相場環境に対応することを追求します。**

- このファンドを通じて、世界の主要な債券、株式、資源資産への分散投資が実現できます。
- 運用のプロが相場環境に応じた資産配分やリスク量の調整を行います。  
※債券・株式・資源資産への投資には先物や上場投資証券および指数連動債を活用します。

### 実績

**プレミア・プラス運用は海外で良好な実績により高い評価を受けています。**

- 2008年からの運用実績があります。2015年3月末現在の運用資産残高は約2.3兆円\*2です。
- 米国確定拠出年金 (DC) においてQDIA適格プロダクト\*3として認定された実績があります。  
※プレミア・プラス運用とは、ファンドの実質的な運用において採用するインベスコ リスク・バランス・アロケーション運用を指します。

\*1 ファンドの運用では、債券、株式、資源資産(コモディティ)に分散して運用を行いますが、目標とするリターンやリスクの実現を保証するものではありません。目標とするリターンやリスクが実現できない主な要因としては、債券、株式、資源資産の相関関係や価格変動性が想定と異なることや、投資環境見直しなどの運用判断が実際の投資環境と異なることなどがあります。

\*2 2015年3月末現在は194億米ドルの運用資産残高(2015年3月31日の米ドル円レート、1米ドル=120.17円で換算)

\*3 QDIAとはQualified Default Investment Alternativeの略称で、米国確定拠出年金(DC)において、プラン加入者が拠出金に対して、自ら資産の運用指図を行わない場合に、プラン・スポンサーが自動的に投資先として選択してよい初期設定(デフォルト)運用商品。

\* 上図はイメージ図であり、投資家のニーズすべてを表すとは限りません。また、ファンドがすべてのニーズを満たすことを保証するものではありません。

## ファンドの運用プロセス

## &lt; 訂正前 &gt;

(前略)

上記はファンドの実質的な運用プロセスです。ファンドの運用プロセス等は、ファンドの設定日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

(後略)

## &lt; 訂正後 &gt;

(前略)

上記はファンドの実質的な運用プロセスです。ファンドの運用プロセス等は、平成27年6月末現在のものであり、今後変更となる場合があります。

(後略)

## (参考) マザーファンドが投資対象とする投資信託証券の概要

代表的な投資対象等のご紹介

該当事項が以下の内容に更新されます。

インベスコ・バランスト・リスク・アロケーション・ファンドの代表的な取引対象または投資対象は以下の通りです。

資産クラス	代表的な取引対象または投資対象
債券 (債券先物)	米国債： 米国債先物 英国債： 英国債先物 ドイツ国債： ドイツ国債先物 日本国債： 日本国債先物 カナダ国債： カナダ国債先物 オーストラリア国債： オーストラリア国債先物
株式 (株価指数先物)	米国大型株式： S&P 500種指数先物 米国小型株式： Russell 2000指数先物 英国株式： FTSE 100種総合株価指数先物 欧州株式： EURO STOXX 50指数先物 日本株式： TOPIX先物 香港株式： 香港ハンセン株価指数先物
コモディティ (上場投資証券、 指数連動債)	金： Source Physical Gold ETC、Gold Bullion Securities 銀： ETFs Physical Silver 銅： JPM Copper Index Linked Note アルミニウム： ETFs Aluminium 原油： RBS RICI Enhanced Brent Crude Oil、UBS ETC Brent Crude Oil(ブレント原油)、RBS RICI Enhanced WTI Crude Oil、UBS ETC WTI Crude Oil(WTI原油) 農産物： CIBC Commodity Linked Note 等

\* 上記は代表的な例であり、必ずしも上記の投資対象等に限定されるわけではありません。

ファンドが投資対象とする投資信託証券およびマザーファンドが投資対象とする投資信託証券は、平成27年6月末現在のものであり、委託会社の判断により今後変更となる場合があります。



## (2) ファンドの沿革

## &lt; 訂正前 &gt;

平成26年11月28日	信託契約締結、ファンド設定、運用開始（予定）
-------------	------------------------

## &lt; 訂正後 &gt;

平成26年11月28日	信託契約締結、ファンド設定、運用開始
-------------	--------------------

## (3) ファンドの仕組み

## 委託会社等の概況

## &lt; 訂正前 &gt;

(前略)

資本金	4,000百万円（平成26年9月30日現在）
-----	------------------------

(中略)

大株主の状況	（平成26年9月30日現在）			
	名称	住所	所有株式数	所有比率
	インベスコ・ ファー・イース ト・リミテッド	Perpetual Park, Perpetual Park Drive, Henley-on-Thames, Oxfordshire, RG9 1HH, United Kingdom	40,000株	100%

## &lt; 訂正後 &gt;

(前略)

資本金	4,000百万円（平成27年6月30日現在）
-----	------------------------

(中略)

大株主の状況	（平成27年6月30日現在）			
	名称	住所	所有株式数	所有比率
	インベスコ・ ファー・イース ト・リミテッド	Perpetual Park, Perpetual Park Drive, Henley-on-Thames, Oxfordshire, RG9 1HH, United Kingdom	40,000株	100%

## 2 投資方針

## (3)運用体制

&lt; 訂正前 &gt;

(前略)

上記運用体制における組織名称等は、ファンドの設定日現在のものであり、委託会社の組織変更などにより変更となる場合があります。

&lt; 訂正後 &gt;

(前略)

上記運用体制における組織名称等は、平成27年6月30日現在のものであり、委託会社の組織変更などにより変更となる場合があります。

## (5)投資制限

信託約款上の投資制限

&lt; 訂正前 &gt;

(前略)

デリバティブ取引の利用（運用の基本方針）	デリバティブ取引の直接利用は行いません。
資金の借り入れ（第24条）	<ul style="list-style-type: none"> <li>投資信託財産の効率的な運用および運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借り入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資にかかる分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借り入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。</li> <li>当該借入金をもって有価証券等の運用は行いません。</li> <li>借入金の利息は投資信託財産中から支弁します。</li> </ul>

上記の投資制限の詳細は、信託約款をご覧ください。

&lt; 訂正後 &gt;

(前略)

デリバティブ取引の利用（運用の基本方針）	デリバティブ取引の直接利用は行いません。
<u>信用リスク集中回避のための投資制限（第18条の2）</u>	<u>一般社団法人投資信託協会の規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャー及びデリバティブ取引等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する実質比率は、原則としてそれぞれ100分の10、合計で100分の20を超えないものとし、当該実質比率を超えることとなった場合には、委託者は一般社団法人投資信託協会の規則にしたがい当該実質比率以内となるよう調整を行うものとします。</u>
資金の借り入れ（第24条）	<ul style="list-style-type: none"> <li>投資信託財産の効率的な運用および運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借り入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資にかかる分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借り入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。</li> <li>当該借入金をもって有価証券等の運用は行いません。</li> <li>借入金の利息は投資信託財産中から支弁します。</li> </ul>

上記の投資制限の詳細は、信託約款をご覧ください。



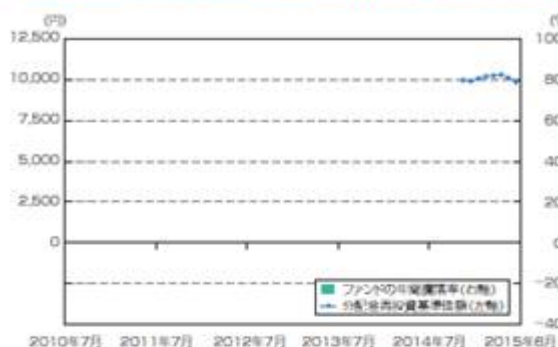


### 3 投資リスク

投資リスクについては、該当事項に以下の内容が追加されます。

#### <参考情報>

##### ファンドの年間騰落率及び分配金再投資基準価額の推移



ファンドは設定から1年が経過していないため、年間騰落率を表示できません。

##### ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



ファンドは設定から1年が経過していないため、表示できません。  
代表的な資産クラス：2010年7月～2015年6月

- \* 上記、各グラフのファンドに関するデータは、課税前の分配金を再投資したものとみなして計算した分配金再投資基準価額を用いています。実際の基準価額および基準価額に基づいて計算した騰落率とは異なる場合があります。
- \* 「ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較」は、ファンドと他の代表的な資産クラスの値動きを定量的に比較できるように作成したものです。すべての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を表示しています。
- \* 代表的な資産クラスの騰落率を計算するために使用した指数は以下の通りです。海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースのものを使用しています。

日本株	<p><b>TOPIX（東証株価指数）（配当込み）</b> TOPIXは、東京証券取引所第一部に上場している内国普通株式全銘柄の株価を対象として算出した指数です。TOPIXは、東京証券取引所の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、東京証券取引所が有しています。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。</p>
先進国株	<p><b>MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）</b> MSCI コクサイ・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCI コクサイ・インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべて MSCI Inc.に帰属します。</p>
新興国株	<p><b>MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）</b> MSCI エマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべて MSCI Inc.に帰属します。なお、円ベース指数については、委託会社が MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、米ドルベース）に、当日の米ドル為替レート(WM/ロイター値)を乗じて算出しています。</p>
日本国債	<p><b>NOMURA-BPI 国債</b> NOMURA-BPI 国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。</p>
先進国債	<p><b>シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）</b> シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、Citigroup Index LLCが開発した日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数で、著作権、商標権、知的財産権、その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。</p>
新興国債	<p><b>JP モルガン GBI-EM グローバル・ダイバーシファイド（円ベース）</b> JP モルガン GBI-EM グローバル・ダイバーシファイドは、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。円ベース指数については、委託会社が JP モルガン GBI-EM グローバル・ダイバーシファイド（米ドルベース）に、当日の米ドル為替レート(WM/ロイター値)を乗じて算出しています。 本指数は、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morgan はその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morgan からの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2015, J.P. Morgan Chase &amp; Co. All rights reserved.</p>

## 4 手数料等及び税金

## (1) 申込手数料＜投資者が直接的に負担する費用＞

## &lt; 訂正前 &gt;

購入時手数料	<p>購入時手数料<sup>1</sup>は、購入口数、購入金額<sup>2</sup>または購入代金<sup>3</sup>などに応じて、購入の申込受付日の翌営業日の基準価額（当初申込期間中は1口当たり1円）に、販売会社が定める5.40%（税抜き5.00%）以内の手数料率を乗じて得た額とします。詳しくは、お申し込みの販売会社にお問い合わせください。</p> <p>1 購入時手数料には、購入時手数料にかかる消費税および地方消費税に相当する金額（以下「消費税等相当額」といいます。）がかかります。</p> <p>2 「購入金額」とは、「購入の申込受付日の翌営業日の基準価額（当初申込期間中は1口当たり1円）×購入口数」により計算される金額をいいます。</p> <p>3 「購入代金」とは、「購入金額+購入時手数料(税込み)」により計算される金額をいいます。</p>
--------	---

(後略)

## &lt; 訂正後 &gt;

購入時手数料	<p>・購入時手数料<sup>1</sup>は、購入口数、購入金額<sup>2</sup>または購入代金<sup>3</sup>などに応じて、購入の申込受付日の翌営業日の基準価額（当初申込期間中は1口当たり1円）に、販売会社が定める5.40%（税抜き5.00%）以内の手数料率を乗じて得た額とします。</p> <p>・購入時手数料は、商品および関連する投資環境の説明および情報提供等、ならびに購入に関する事務コストの対価として、販売会社にお支払いいただきます。</p> <p>詳しくは、お申し込みの販売会社にお問い合わせください。</p> <p>1 購入時手数料には、購入時手数料にかかる消費税および地方消費税に相当する金額（以下「消費税等相当額」といいます。）がかかります。</p> <p>2 「購入金額」とは、「購入の申込受付日の翌営業日の基準価額×購入口数」により計算される金額をいいます。</p> <p>3 「購入代金」とは、「購入金額+購入時手数料(税込み)」により計算される金額をいいます。</p>
--------	---

(後略)

## (3) 信託報酬等＜投資者が信託財産で間接的に負担する費用＞

## &lt; 訂正前 &gt;

(前略)

信託報酬の配分	信託報酬の配分は、以下の通り（税抜き）とします。			
	配分 (年率)	委託会社 0.08%	販売会社 0.75%	受託会社 0.03%

(後略)

&lt; 訂正後 &gt;

( 前略 )

信託報酬の配分	信託報酬の配分は、以下の通り（税抜き）とします。				
	配分 (年率)	委託会社	販売会社	受託会社	合計
		0.08%	0.75%	0.03%	0.86%
	信託報酬の配分先および役務の内容は以下の通りです。				
	配分先	役務の内容			
	委託会社	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等			
	販売会社	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等			
	受託会社	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等			

( 後略 )

(4) その他の手数料等 &lt; 投資者が信託財産で間接的に負担する費用 &gt;

その他諸費用

&lt; 訂正前 &gt;

該当する費用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 監査費用</li> <li>・ 法律顧問および税務顧問への報酬</li> <li>・ 受益権の管理事務等に関連する費用</li> <li>・ 有価証券届出書、有価証券報告書および臨時報告書の作成および届出または提出にかかる費用</li> <li>・ 目論見書の作成、印刷および交付にかかる費用</li> <li>・ ファンドの受益者に対してする公告にかかる費用、ならびに信託約款の変更または信託契約の解約にかかる事項を記載した書面の作成、印刷および交付にかかる費用</li> <li>・ 運用報告書の作成、印刷および交付にかかる費用</li> </ul>
--------	--

( 後略 )

&lt; 訂正後 &gt;

該当する費用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 監査費用（<u>ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用</u>）</li> <li>・ 法律顧問および税務顧問への報酬</li> <li>・ 受益権の管理事務等に関連する費用</li> <li>・ 有価証券届出書、有価証券報告書および臨時報告書の作成および届出または提出にかかる費用</li> <li>・ 目論見書の作成、印刷および交付にかかる費用</li> <li>・ ファンドの受益者に対してする公告にかかる費用、ならびに信託約款の変更または信託契約の解約にかかる事項を記載した書面の作成、印刷および交付にかかる費用</li> <li>・ 運用報告書の作成、印刷および交付にかかる費用</li> </ul>
--------	--

( 後略 )

## (5)課税上の取扱い

## &lt;訂正前&gt;

(前略)

個人の受益者に対する課税の取り扱い

(中略)

損益通算について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 解約時および償還時の差損（譲渡損）については、確定申告により他の上場株式等の譲渡益および上場株式等の配当所得の金額（申告分離課税を選択したものに限り、）と損益通算すること、または特定口座（源泉徴収あり）の利用により当該特定口座内の他の上場株式等の譲渡益および上場株式等の配当所得の金額と損益通算することができます。</li> <li>・ 解約時および償還時の差益（譲渡益）については、他の上場株式等の譲渡損と損益通算することができます。</li> </ul>
----------	--

少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」について

少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合、毎年、年間100万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が最長5年間非課税となります。他の口座で生じた配当所得・譲渡所得との損益通算はできません。ご利用になれるのは、日本国内居住の満20歳以上の方で、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

(中略)

上記は、平成26年9月末現在の情報に基づくものですので、税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。その結果、上記の記載内容に変更が生じることがあります。

税金の取り扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

## &lt;訂正後&gt;

(前略)

個人の受益者に対する課税の取り扱い

(中略)

損益通算について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 解約時および償還時の差損（譲渡損）については、確定申告により他の上場株式等の譲渡益および上場株式等の配当所得（申告分離課税を選択したものに限り、）と損益通算することができます。</li> <li>・ 解約時および償還時の差益（譲渡益）および普通分配金（申告分離課税を選択したものに限り、）については、確定申告により他の上場株式等の譲渡損と損益通算することができます。</li> </ul> <p>&lt;平成28年1月1日以降&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 解約時および償還時の差損（譲渡損）については、確定申告により他の上場株式等の譲渡益、上場株式等の配当所得および特定公社債等の利子所得（申告分離課税を選択したものに限り、）と損益通算することができます。</li> <li>・ 解約時および償還時の差益（譲渡益）、普通分配金および特定公社債等の利子所得（申告分離課税を選択したものに限り、）については、他の上場株式等の譲渡損と損益通算することができます。</li> </ul> <p>* 特定口座にかかる課税上の取り扱いにつきましては、販売会社にお問い合わせください。</p>
----------	---

少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」について

少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。他の口座で生じた配当所得・譲渡所得との損益通算はできません。販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

(中略)

上記は、平成27年6月末現在の情報に基づくものですので、税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。その結果、上記の記載内容に変更が生じることがあります。

税金の取り扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

[次へ](#)

## 5 運用状況

運用状況については、該当事項が以下の内容に更新されます。

## (1)投資状況(平成27年6月30日現在)

投資資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
親投資信託受益証券	日本	561,409,035	99.25
投資信託受益証券	日本	5,000,000	0.88
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)		759,583	0.13
合計(純資産総額)		565,649,452	100.00

(注)投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。以下同じです。

## (参考)インベスコ バランスト・リスク・アロケーション マザーファンド

投資資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
投資信託証券	ルクセンブルグ	552,559,063	98.41
コール・ローン、その他の資産(負債控除後)		8,874,815	1.58
合計(純資産総額)		561,433,878	100.00

## (2)投資資産(平成27年6月30日現在)

## 投資有価証券の主要銘柄

国/地域	種類	銘柄名	数量 (口数)	帳簿価額単価 帳簿価額金額 (円)	評価額単価 評価額金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	親投資信託 受益証券	インベスコ バランスト・リスク・ アロケーション マザーファンド	564,513,862	1.0227 577,384,626	0.9945 561,409,035	99.25
日本	投資信託 受益証券	インベスコ マネー プール・ファンド	5,000,000	1.0000 5,000,000	1.0000 5,000,000	0.88

## 種類別投資比率

種類	投資比率(%)
親投資信託受益証券	99.25
投資信託受益証券	0.88
合計	100.13

## (参考)インベスコ バランスト・リスク・アロケーション マザーファンド

国/地域	種類	銘柄名	数量 (口数)	帳簿価額単価 帳簿価額金額 (円)	評価額単価 評価額金額 (円)	投資 比率 (%)
ルクセンブルグ	投資信託 証券	インベスコ・バラン スト・リスク・アロケ ーション・ファンド	511,155.47	1,088.99 556,643,195	1,081 552,559,063	98.41

## 種類別投資比率

種類	投資比率(%)
投資信託証券	98.41
合計	98.41

## 投資不動産物件

該当事項はありません。

## その他投資資産の主要なもの

該当事項はありません。

## (3)運用実績

## 純資産の推移

	純資産総額 (百万円) (分配落)	純資産総額 (百万円) (分配付)	1口当たり 純資産額(円) (分配落)	1口当たり 純資産額(円) (分配付)
第1期計算期間(平成27年5月20日現在)	600	600	1.0188	1.0188
平成26年11月末日	470	-	1.0000	-
平成26年12月末日	547	-	0.9944	-
平成27年1月末日	599	-	1.0102	-
平成27年2月末日	609	-	1.0235	-
平成27年3月末日	581	-	1.0278	-
平成27年4月末日	560	-	1.0341	-
平成27年5月末日	590	-	1.0142	-
平成27年6月末日	565	-	0.9879	-

## 分配の推移

	1口当たりの分配金(円)
第1期計算期間	0.0000

## 収益率の推移

	収益率(%)
第1期計算期間	1.88

(注1)収益率は、計算期間末の基準価額(分配付の額)から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額(分配落の額。以下「前期末基準価額」といいます。)を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じて得た数を記載しております。

(注2)第1期計算期間については、前期末基準価額の代わりに当初設定元本(1口当たり1円)を使用しております。

## (4) 設定及び解約の実績

	設定数量(口)	解約数量(口)
第1期計算期間	768,884,074	179,590,411

(注1) 設定数量には当初設定数量を含みます。

(注2) 本邦外における設定、解約の実績はありません。

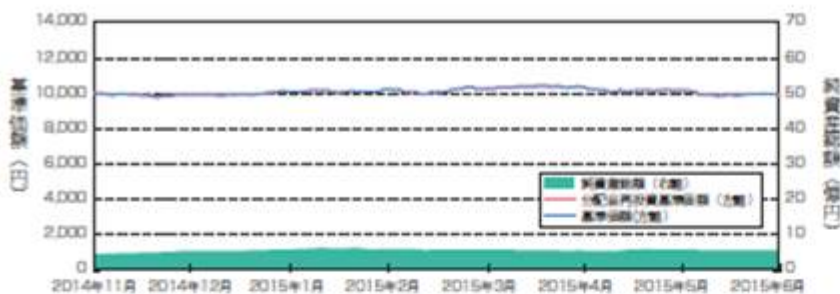


(参考情報) 交付目論見書に記載する運用実績

(2015年6月30日現在)

## 基準価額・純資産の推移

### ■ 基準価額・純資産総額の推移（設定来）



基準価額	9,879 円
純資産総額	566 百万円

### ■ 期間騰落率

期間	ファンド
1カ月	-2.6%
3カ月	-3.9%
6カ月	-0.7%
1年	—
3年	—
5年	—
設定来	-1.2%

- \* 基準価額、分配金再投資基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後のものです。
- \* 分配金再投資基準価額は、課税前分配金を再投資したと仮定した数値を用いています。

\* 期間騰落率は、分配金再投資基準価額の騰落率です。

## 分配の推移

(課税前/1万口当たり)

決算期	2015年6月	設定来累計
分配金	0 円	0 円

## 主要な資産の状況

### ■ 資産配分

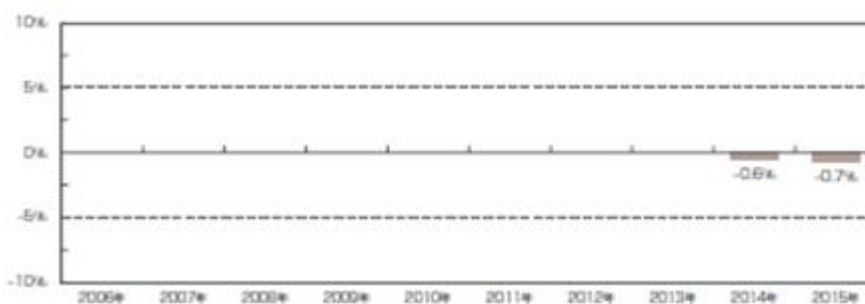
	純資産比
インベスコ バランスト・リスク・アロケーション マザーファンド	99.3%
インベスコ マネーブル・ファンド（連格機関投資家私募投債）	0.9%
キャッシュ等	-0.1%

(参考) 資産配分 インベスコ・バランスト・リスク・アロケーション・ファンド

【マザーファンドが投資対象とする「インベスコ・バランスト・リスク・アロケーション・ファンド」の運用状況（現地月末基準）を記載しています。】

債券（債券先物）			株式（株指先物）			コモディティ（上場投資証券、指数連動債）		
		比率			比率			比率
債券（債券先物）	米国	11.1%	株式（株指先物）	米国	12.2%	コモディティ（上場投資証券、指数連動債）	金	4.2%
	英国	18.8%		英国	8.2%		銀	2.5%
	ドイツ	13.0%		欧州	7.3%		銅	2.8%
	日本	12.3%		日本	7.0%		アルミニウム	1.9%
	カナダ	15.3%		香港	7.0%		原油	4.8%
	オーストラリア	15.9%		計	41.7%		農産物	8.6%
計	86.4%					計	24.8%	
合計（債券、株式、コモディティ）								152.9%

## 年間収益率の推移



- \* ファンドにはベンチマークはありません。
- \* ファンドの年間収益率は、分配金再投資基準価額を基に算出しています。
- \* 2014年はファンドの設定日（2014年11月28日）から年末まで、2015年は6月末までの騰落率を表示しています。

- ・運用実績は、過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- ・最新の運用状況は、委託会社のホームページでご覧いただけます。

[次へ](#)

## 第2 管理及び運営

### 3 資産管理等の概要

#### (5) その他

その他は、該当事項が以下の内容に更新されます。

<p>繰上償還</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委託会社は、信託設定日より1年を経過した以降において、信託契約の一部解約により、受益権の総口数が30億口を下回ることとなった場合、信託期間中においてファンドの信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、ファンドの信託契約を解約し、信託を終了させることができます。</li> <li>・委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。</li> <li>・信託契約の解約は、以下の手続きで行います。</li> </ul> <div data-bbox="507 723 1385 1144" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>書面決議による繰上償還の流れ</b></p> <p style="font-size: small;">*知れている受益者が議決権を行使しないときは、書面決議について賛成するものとみなします。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 上記の手続きは、委託会社が信託契約の解約について提案をした場合において、ファンドの信託契約にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。</li> <li>* 上記の手続きは、投資信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、上記の手続きを行うことが困難な場合には適用しません。</li> <li>* 委託会社は、監督官庁よりファンドの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令に従い、信託契約を解約し信託を終了させます。</li> </ul>
-------------	--

<p>信託約款の変更等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは受託会社と合意のうえ、ファンドの信託約款を変更することまたはファンドと他のファンドとの併合を行うことができます。 投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。以下同じです。</li> <li>委託会社は、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。なお、ファンドの信託約款は当「信託約款の変更等」に定める以外の方法によって変更することができないものとします。</li> <li>その内容が重大なものおよび併合（以下「重大な信託約款の変更等」といいます。）は、以下の手続きで行います。</li> </ul> <div data-bbox="497 555 1390 996" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>重大な信託約款の変更等の流れ</b></p> <pre> graph LR     A[書面決議の日 の2週間前までに、 知っている受益者に対し、 書面決議の通知等の書面を送信] --&gt; B[書面決議]     B -- "議決権を行使できる 受益者の議決権の3分の2以上で 成立した場合" --&gt; C([約款変更実施])     B -- "否決された場合" --&gt; D[約款変更不成立]   </pre> <p>* 知っている受益者が議決権を行使しないときは、書面決議について賛成するものとみなします。 * 書面決議の効力は、ファンドのすべての受益者に対してその効力を生じます。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 上記の手続きは、委託会社が重大な信託約款の変更等について提案をした場合において、ファンドの信託約款にかかるすべての受益者が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。</li> <li>* ファンドにおいて併合の書面決議が可決された場合にあっても、当該併合にかかる一または複数の他のファンドにおいて当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他のファンドとの併合を行うことはできません。</li> <li>* 委託会社は、監督官庁の命令に基づいてファンドの信託約款を変更しようとするときは、上記の手続きに従います。</li> </ul>
<p>反対受益者の受益権買取請求の不適用</p>	<p>当ファンドは、前記「繰上償還」に規定する信託約款の解約、または「信託約款の変更等」に規定する重大な信託約款の変更等を行う場合、投資信託及び投資法人に関する法律第18条第1項に定める反対受益者による受益権の買取請求の規定の適用を受けません。</p>
<p>関係会社との契約の更新等に関する手続きについて</p>	<p>委託会社と販売会社との間で締結される「受益権の募集・販売等に関する契約」は、期間満了の3カ月前までに、委託会社、販売会社いずれからも別段の意思表示のないときは、自動的に1年間延長されます。自動延長後の取り扱いも同様です。</p>
<p>運用報告書</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>委託会社は、計算期間の終了ごとおよび償還時に交付運用報告書（投資信託及び投資法人に関する法律第14条第4項に定める運用報告書）を作成し、販売会社を通じて、知っている受益者に対して交付します。</li> <li>委託会社は、運用報告書（全体版）（投資信託及び投資法人に関する法律第14条第1項に定める運用報告書）を作成し、委託会社のホームページに掲載します。</li> <li>上記にかかわらず、受益者から運用報告書（全体版）の交付の請求があった場合には、これを交付します。</li> </ul>
<p>公告</p>	<p>受益者に対する公告は、日本経済新聞に掲載します。</p>

## 4 受益者の権利等

&lt; 訂正前 &gt;

(前略)

受益権の換金 (解約)請求権	受益者は、受益権の換金(解約)を請求することができます。
反対者の買取請求権	委託会社が、信託契約の解約または重大な信託約款の変更等を行う場合、書面決議において当該解約または重大な信託約款の変更等に反対した受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を投資信託財産をもって買い取るべき旨を請求することができます。
受益権均等分割	受益者は、自己に帰属する受益権の口数に応じて、均等にファンドの受益権を保有します。

(後略)

&lt; 訂正後 &gt;

(前略)

受益権の換金 (解約)請求権	受益者は、受益権の換金(解約)を請求することができます。
受益権均等分割	受益者は、自己に帰属する受益権の口数に応じて、均等にファンドの受益権を保有します。

(後略)

[前へ](#) [次へ](#)

### 第3 ファンドの経理状況

ファンドの経理状況については、該当事項が以下の内容に更新されます。

(1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドの計算期間は6カ月であるため、財務諸表は6カ月毎に作成しております。

なお、第1期計算期間は信託約款第27条第1項により、平成26年11月28日から平成27年5月20日までとなっております。

(3) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1期計算期間(平成26年11月28日から平成27年5月20日まで)の財務諸表について、PwCあらた監査法人による監査を受けております。

[前へ](#) [次へ](#)

## 1 財務諸表

## インベスコ プレミア・プラス・ファンド

## (1)貸借対照表

(単位：円)

	第 1 期 (平成27年 5月20日現在)
資産の部	
流動資産	
投資信託受益証券	5,000,000
親投資信託受益証券	598,499,694
未収入金	1,727,370
流動資産合計	605,227,064
資産合計	605,227,064
負債の部	
流動負債	
未払解約金	2,068,413
未払受託者報酬	87,292
未払委託者報酬	2,415,038
その他未払費用	290,855
流動負債合計	4,861,598
負債合計	4,861,598
純資産の部	
元本等	
元本	589,293,663
剰余金	
期末剰余金又は期末欠損金( )	11,071,803
(分配準備積立金)	9,699,550
元本等合計	600,365,466
純資産合計	600,365,466
負債純資産合計	605,227,064

## (2)損益及び剰余金計算書

(単位：円)

	第 1 期
	自 平成26年11月28日
	至 平成27年 5 月20日
営業収益	
受取利息	3
有価証券売買等損益	15,152,470
営業収益合計	15,152,473
営業費用	
受託者報酬	87,292
委託者報酬	2,415,038
その他費用	290,855
営業費用合計	2,793,185
営業利益又は営業損失( )	12,359,288
経常利益又は経常損失( )	12,359,288
当期純利益又は当期純損失( )	12,359,288
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約 に伴う当期純損失金額の分配額( )	2,659,738
剰余金増加額又は欠損金減少額	1,372,253
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	46,153
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	1,326,100
分配金	-
期末剰余金又は期末欠損金( )	11,071,803

[前へ](#) [次へ](#)

## (3)注記表

## (重要な会計方針に係る事項に関する注記)

有価証券の評価基準及び評価方法	<p>(1)投資信託受益証券 移動平均法に基づき、投資信託受益証券の基準価額で評価しております。</p> <p>(2)親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、親投資信託受益証券の基準価額で評価しております。</p>
-----------------	---

## (貸借対照表に関する注記)

第 1 期 (平成27年 5 月20日現在)	
1. 期首元本額	470,812,080円
期中追加設定元本額	298,071,994円
期中解約元本額	179,590,411円
2. 計算期間末日における受益権の総数	589,293,663口

## (損益及び剰余金計算書に関する注記)

第 1 期 自 平成26年11月28日 至 平成27年 5 月20日	
<p>分配金の計算過程</p> <p>計算期間末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(1,397円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除した額(9,698,153円)、信託約款に規定される収益調整金(1,372,253円)及び分配準備積立金(0円)より分配対象収益は11,071,803円(1万口当たり187.87円)ですが、分配を行っておりません。</p> <p>なお、分配金の計算過程においては、親投資信託の配当等収益及び収益調整金相当額を充当する方法によっております。</p>	



## (金融商品に関する注記)

## 金融商品の状況に関する事項

1. 金融商品に対する取組方針	証券投資信託として、有価証券等の金融商品に対する投資を、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い行っております。
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	<p>当ファンドは、投資信託受益証券及び親投資信託受益証券を主要投資対象としております。投資する投資信託受益証は、インベスコ マネープール・ファンド（適格機関投資家私募投信）、親投資信託受益証券は、インベスコ バランスト・リスク・アロケーション マザーファンドです。</p> <p>投資信託受益証券は、公社債にかかるリスク等にさらされております。</p> <p>親投資信託受益証券は、株価指数先物の価格変動リスク、債券先物の価格変動リスク、コモディティの価格変動リスク、信用リスク、デフォルト・リスク、流動性リスク、カントリー・リスク、為替変動リスク等にさらされております。</p>
3. 金融商品に係るリスク管理体制	<p>取締役会で定めたリスク管理の基本方針、及びリスク管理規程に従い、包括的なリスク管理を「リスク管理委員会」（以下「RMC」といいます。）で行います。RMCは、社内各部署から報告された各種リスクを検討、協議し、具体的なリスク管理方針を策定します。</p> <p>RMCでは、分会として「運用リスク管理委員会」（以下「IRMC」といいます。）を開催し、運用リスクの管理を行います。IRMCは、運用リスクを把握し、運用の適切性・妥当性を検証、審議して、その結果をRMCへ報告します。</p>

## 金融商品の時価等に関する事項

項目	第1期 (平成27年5月20日現在)
1. 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	貸借対照表計上額は期末の時価で計上しているため、その差額はありませ
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券 「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」に記載しております。  (2) デリバティブ取引 該当事項はありません。  (3) 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品については、短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の時価を帳簿価額としております。
3. 金融商品の時価等に関する事項の補足事項	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

## (有価証券に関する注記)

## 売買目的有価証券

種類	第1期 (平成27年5月20日現在)
	当計算期間の損益に含まれた評価差額(円)
投資信託受益証券	-
親投資信託受益証券	13,026,722
合計	13,026,722

## (デリバティブ取引等に関する注記)

第1期 (平成27年5月20日現在)
該当事項はありません。

## (関連当事者との取引に関する注記)

第 1 期 自 平成26年11月28日 至 平成27年 5 月20日
該当事項はありません。

## (1口当たり情報に関する注記)

第 1 期 (平成27年 5 月20日現在)
1口当たり純資産額 1,0188円 (1万口当たり純資産額 10,188円)

## (4)附属明細表

## 第 1 有価証券明細表

株式

該当事項はありません。

株式以外の有価証券

## (投資信託受益証券)

(平成27年 5 月20日現在)

種類	銘柄	口数	評価額(円)	備考
投資信託 受益証券	インベスコ マネープール・ ファンド(適格機関投資家私募 投信)	5,000,000	5,000,000	
	合計	5,000,000	5,000,000	

## (親投資信託受益証券)

(平成27年 5 月20日現在)

種類	銘柄	券面総額	評価額(円)	備考
親投資信託 受益証券	インベスコ バランスト・リス ク・アロケーション マザー ファンド	584,187,110	598,499,694	
	合計	584,187,110	598,499,694	

(注)親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、証券数を表示しております。

**第2 信用取引契約残高明細表**

該当事項はありません。

**第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表**

該当事項はありません。

## 参考情報

当ファンドは、「インベスコ バランスト・リスク・アロケーション マザーファンド」受益証券及び「インベスコ マネープール・ファンド（適格機関投資家私募投信）」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「投資信託受益証券」は、「インベスコ マネープール・ファンド（適格機関投資家私募投信）」、「親投資信託受益証券」は、すべて「インベスコ バランスト・リスク・アロケーション マザーファンド」の受益証券です。同ファンドの状況は次の通りです。

「インベスコ バランスト・リスク・アロケーション マザーファンド」の状況

なお、以下に記載した情報は監査対象外であります。

## 貸借対照表

(単位：円)

区 分	注記 番号	(平成27年 5月20日現在)
		金 額
資産の部		
流動資産		
コール・ローン		40,580,418
投資証券		559,624,108
未収利息		11
流動資産合計		600,204,537
資産合計		600,204,537
負債の部		
流動負債		
未払解約金		1,727,370
流動負債合計		1,727,370
負債合計		1,727,370
純資産の部		
元本等		
元本		584,187,110
剰余金		
剰余金又は欠損金( )		14,290,057
元本等合計		598,477,167
純資産合計		598,477,167
負債純資産合計		600,204,537

## 注記表

## (重要な会計方針に係る事項に関する注記)

有価証券の評価基準及び評価方法	<p>投資証券</p> <p>移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。</p> <p>時価評価にあたっては、投資証券の基準価額、外国金融商品市場(金融商品取引法(昭和23年法律第25号)第2条第8項第3号口に規定するものをいいます。)における最終相場(最終相場のないものについては、それに準ずる価格)、又は第一種金融商品取引業者から提示される気配相場に基づいて評価しております。</p>
-----------------	--

## (貸借対照表に関する注記)

(平成27年5月20日現在)	
1. 本書における開示対象ファンドの期首における	
当該親投資信託の元本額	465,812,080円
同期中における追加設定元本額	296,983,211円
同期中における解約元本額	178,608,181円
同計算期間末日における元本の内訳	
(保有ファンド名)	(金額)
インベスコ プレミア・プラス・ファンド	584,187,110円
合計	584,187,110円
2. 本書における開示対象ファンドの計算期間末日における	
当該親投資信託の受益権の総数	584,187,110口

## (金融商品に関する注記)

## 金融商品の状況に関する事項

1. 金融商品に対する取組方針	証券投資信託として、有価証券等の金融商品に対する投資を、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い行っております。
2. 金融商品の内容及び金融商品に係るリスク	<p>ファンドが保有する金融資産は、主として投資証券であります。投資する主な投資証券は、インベスコ・バランスト・リスク・アロケーション・ファンド クラスC-Accumulation投資信託証券(円ヘッジ付)です。</p> <p>投資証券は、株価指数先物の価格変動リスク、債券先物の価格変動リスク、コモディティの価格変動リスク、信用リスク、デフォルト・リスク、流動性リスク、カントリー・リスク、為替変動リスク等にさらされております。</p>
3. 金融商品に係るリスク管理体制	当ファンドに投資する証券投資信託の「(金融商品に関する注記)」に記載しております

## 金融商品の時価等に関する事項

項目	(平成27年5月20日現在)
----	----------------

1. 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	貸借対照表計上額は本書における開示対象ファンドの計算期間末日の時価で計上しているため、その差額はありません。
2. 時価の算定方法	(1) 有価証券 「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」に記載しております。  (2) デリバティブ取引 該当事項はありません。  (3) 上記以外の金融商品 上記以外の金融商品については、短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の時価を帳簿価額としております。
3. 金融商品の時価等に関する事項の補足事項	当ファンドに投資する証券投資信託の「(金融商品に関する注記)」に記載しております。

## (有価証券に関する注記)

## 売買目的有価証券

種 類	(平成27年 5月20日現在)	
	当計算期間の損益に含まれた評価差額(円)	
投資証券		12,978,303
合 計		12,978,303

## (デリバティブ取引等に関する注記)

(平成27年 5月20日現在)	
該当事項はありません。	

## (関連当事者との取引に関する注記)

自 平成26年11月28日 至 平成27年 5月20日	
該当事項はありません。	

## (1口当たり情報に関する注記)

(平成27年 5月20日現在)	
1口当たり純資産額	1.0245円
(1万口当たり純資産額)	10,245円)

## 附属明細表

## 第1 有価証券明細表

株式

該当事項はありません。

株式以外の有価証券(投資証券)

(平成27年5月20日現在)

種類	通貨	銘柄	口数	評価額		備考
				単価	金額	
投資証券	日本円	インベスコ・バランスト・リスク・アロケーション・ファンド クラスC-Accumulation投資信託証券(円ヘッジ付)	501,905.03	1,115.00	559,624,108	
	合計				559,624,108	

## 第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

## 第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

## 参考情報

インベスコ・バランスト・リスク・アロケーション・マザーファンドは、「インベスコ・バランスト・リスク・アロケーション・ファンド」投資証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「投資証券」は、同ファンドの投資証券です。

なお、以下に記載した情報は当ファンドの監査の対象外であります。

「インベスコ・バランスト・リスク・アロケーション・ファンド」投資証券の状況

「インベスコ・バランスト・リスク・アロケーション・ファンド」投資証券は、ルクセンブルグ籍外国投資法人が発行するクラスC-Accumulation投資信託証券(円ヘッジ付)です。同投資信託は、現地の法律に基づいて財務諸表が作成され、公認会計士により財務書類の監査を受けております。

以下に掲載している2014年2月28日現在の純資産額計算書、損益計算書および純資産額変動計算書及び投資有価証券明細表は、現地FINANCIAL STATEMENTSから抜粋しております。

## (1)純資産額計算書

(2014年2月28日現在)

(単位:ユーロ)

資産	
投資有価証券、時価	3,086,546,184
流動資産	
受益証券発行未収金	1,683,404
その他の未収金	10,064,772



銀行預金	173,205,989
為替先物予約 / 先物契約に係る未実現利益	79,302,274
資産合計	3,350,802,623
流動負債	
受益証券買戻未払金	10,170,828
その他の未払金	5,043,843
為替先物予約 / 先物契約に係る未実現損失	13,943,886
負債合計	29,158,557
純資産額	3,321,644,066

## (2) 損益計算書および純資産額変動計算書

(2013年3月1日から2014年2月28日までの期間)

(単位：ユーロ)

収益	
受取利息(債券)	21,724,281
マーケットディスカウントの増価 / マーケットプレミアムの償却	(29,505,360)
受取利息	290,478
	(7,490,601)
費用	
運用および投資顧問会社報酬	47,837,000
サービス代行報酬	10,273,169
保管報酬	530,578
ルクセンブルグの税金	1,944,755
事務代行費用	897,035
組成費用	10,001
	61,492,538
当期投資純利益 / (損失)	(68,983,139)
受益証券発行 / (買戻) による純収益 / (支払) 金	69,436,932
投資有価証券、デリバティブおよび外国通貨の処分に係る実現純利益 / (損失)	138,760,380
為替先物予約および先物契約に係る未実現評価益 / 損の純変動額	(41,688,731)
投資有価証券に係る未実現評価益 / 損の純変動額	12,260,141
期首純資産額	3,211,858,483
期末純資産額	3,321,644,066

## (3) 投資有価証券明細表

(2014年2月28日現在)

銘柄	額面	時価(ユーロ)	純資産に占める割合(%)
公的な証券取引所に上場を認められているまたは他の規制市場で取引されている譲渡性のある有価証券			
債券			
ドイツ			
Bundesobligation 2.25% EUR 11/04/2014	200,000,000	200,418,369	6.03
Bundesobligation 2.5% EUR 10/10/2014	150,000,000	152,147,213	4.58
Bundesobligation 2.5% EUR 27/02/2015	120,000,000	122,824,332	3.70
Bundesrepublik Deutschland 3.75% EUR 04/01/2015	150,000,000	154,582,313	4.65

Bundesrepublik Deutschland 4.25% EUR 04/07/2014	100,000,000	101,381,510	3.05
Bundesschatzanweisungen 0% EUR 13/06/2014	120,000,000	119,971,620	3.61
Bundesschatzanweisungen 0% EUR 12/09/2014	130,000,000	129,923,079	3.91
Bundesschatzanweisungen 0% EUR 12/12/2014	100,000,000	99,921,430	3.01
Bundesschatzanweisungen 0.25% EUR 14/03/2014	230,000,000	230,006,416	6.93
Bundesschatzanweisungen 0.25% EUR 13/03/2015	150,000,000	150,221,198	4.52
German Treasury Bill 0% EUR 26/03/2014	170,000,000	169,987,641	5.12
German Treasury Bill 0% EUR 14/05/2014	80,000,000	79,990,056	2.41
German Treasury Bill 0% EUR 27/08/2014	120,000,000	119,936,004	3.61
German Treasury Bill 0% EUR 24/09/2014	130,000,000	129,898,581	3.91
German Treasury Bill 0% EUR 26/11/2014	130,000,000	129,887,024	3.91
		2,091,096,786	62.95
<b>米国</b>			
Canadian Imperial Bank 0% USD 18/11/2014	80,000,000	60,890,614	1.83
Canadian Imperial Bank of Commerce 0% USD 04/04/2014	245,200,000	193,437,921	5.82
JP Morgan Structured Products BV 0% USD 09/06/2014	197,500,000	141,752,860	4.27
		396,081,395	11.92
<b>債券合計</b>		2,487,178,181	74.87
<b>証書</b>			
<b>ドイツ</b>			
RICI Enhanced Agriculture ETC	130,000	14,502,800	0.44
RICI Enhanced Brent Crude ETC	880,000	89,865,600	2.70
RICI Enhanced WTI Crude Index	610,000	52,023,850	1.57
		156,392,250	4.71
<b>英国</b>			
ETFS Aluminium	700,000	1,672,621	0.05
ETFS Copper	2,750,000	65,271,531	1.97
ETFS Physical Silver	5,800,000	86,520,348	2.60
Gold Bullion Securities Ltd	1,345,000	124,511,253	3.75
		277,975,753	8.37
<b>証書合計</b>		434,368,003	13.08
公的な証券取引所に上場を認められてい るまたは他の規制市場で取引されている 譲渡性のある有価証券合計		2,921,546,184	87.95
<b>その他の譲渡性のある有価証券</b>			
<b>債券</b>			
Barclays 0% EUR 21/11/2014	165,000,000	165,000,000	4.97
<b>債券合計</b>		165,000,000	4.97
<b>その他の譲渡性のある有価証券合計</b>		165,000,000	4.97
<b>投資有価証券合計</b>		3,086,546,184	92.92

「インベスコ マネープール・ファンド(適格機関投資家私募投信)」受益証券の状況

「インベスコ マネープール・ファンド(適格機関投資家私募投信)」は、第1期計算期間末(平成27年11月20日)を迎えていないため開示していません。

[前へ](#) [次へ](#)

## 2 ファンドの現況

## 純資産額計算書(平成27年6月30日現在)

資産総額	567,634,979 円
負債総額	1,985,527 円
純資産総額( - )	565,649,452 円
発行済数量	572,562,253 口
1単位当たり純資産額( / )	0.9879 円

## (参考) インベスコ バランスト・リスク・アロケーション マザーファンド

資産総額	562,659,822 円
負債総額	1,225,944 円
純資産総額( - )	561,433,878 円
発行済数量	564,513,862 口
1単位当たり純資産額( / )	0.9945 円

[前へ](#) [次へ](#)

## 第三部 委託会社等の情報

### 第1 委託会社等の概況

#### 1 委託会社等の概況

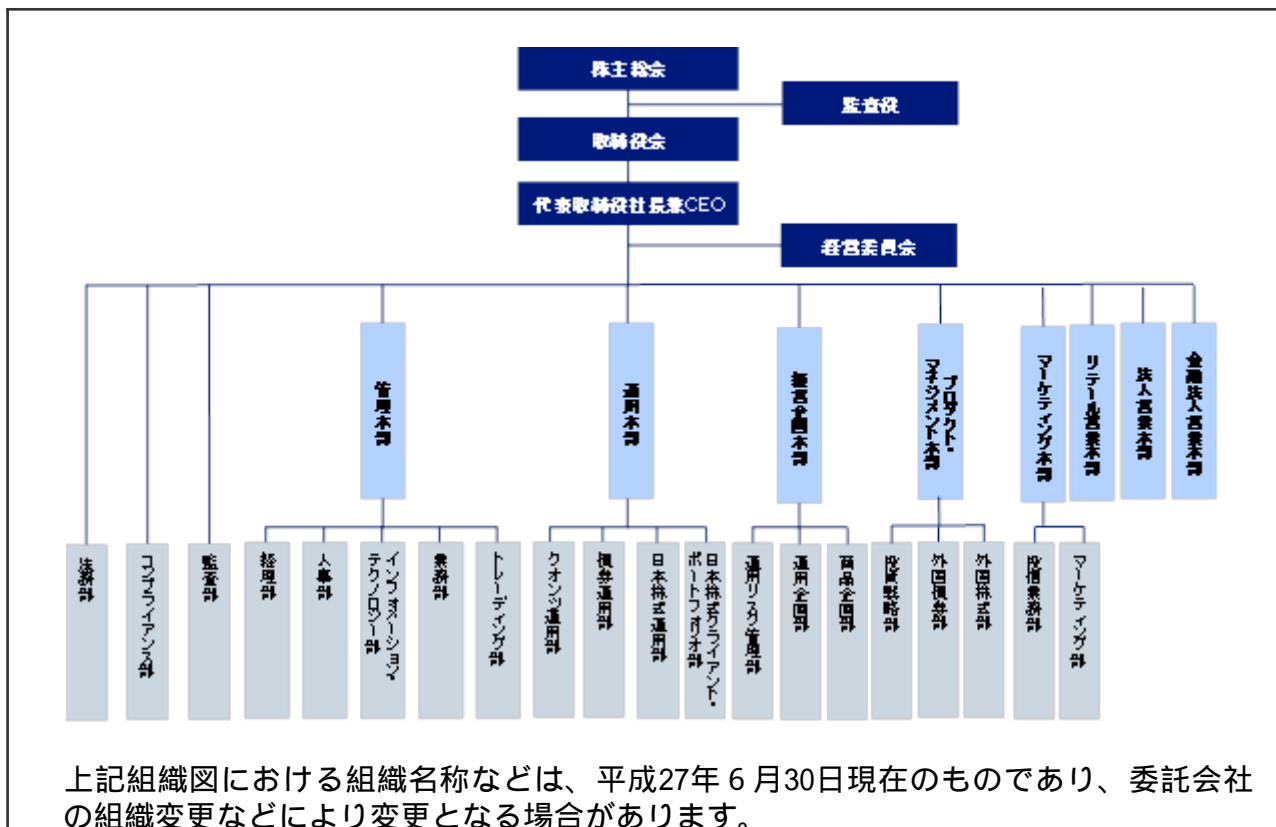
委託会社等の概況については、該当事項が以下の内容に更新されます。

#### (1) 資本金の額

平成27年6月30日 現在の状況	資本金：4,000百万円 発行可能株式総数：56,400株 発行済株式総数：40,000株
直近5カ年における主 な資本金の額の増減	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成22年6月15日付で、資本金の額は480百万円から3,000百万円に増加。</li> <li>平成23年7月6日付で、資本金の額は3,000百万円から4,000百万円に増加。</li> </ul>

#### (2) 委託会社等の機構

##### 組織図



## 会社の意思決定機構

取締役会	取締役の全員をもって構成される取締役会は、代表取締役社長兼CEOを議長とし、原則として四半期ごとに開催されます。取締役会は、経営管理全般に関する重要な事項について、取締役の過半数が出席し、出席取締役の過半数をもって決議します。
代表取締役社長兼CEO	代表取締役社長兼CEOは、委託会社の全般的な業務執行の最高責任者として、取締役会で決議された事項または委任を受けた事項の遂行に対し、権限と責任を有します。
経営委員会	取締役等から構成される経営委員会は、代表取締役社長兼CEOを議長とし、原則として月次で開催されます。経営委員会は、取締役会で決定した基本方針に基づき、取締役会から委譲を受けた権限の範囲内において、経営管理全般に関する重要な事項を協議・決定します。

## 投資運用に関する意思決定プロセス

Plan（計画）	基本的な運用方針は、投資戦略委員会（原則、月次で開催）で分析・討議された投資環境を踏まえ、銘柄検討会議およびポートフォリオ構築/戦略会議（原則、週次あるいは日次で開催）を経て決定されます。
Do（実行）	各運用部のポートフォリオ・マネジャーは、上記の委員会または運用会議の討議内容等を踏まえ、運用計画書を策定し、運用本部長の承認を受け、運用ガイドライン、運用基本方針および運用計画書に従って、ポートフォリオを構築します。
See（検証）	運用リスク管理委員会(原則、月次で開催)は、リスク管理委員会(原則、月次で開催)の分会として、定量的なリスク計測結果をもとに、運用の適切性・妥当性を検証、審議します。また、運用本部から独立したコンプライアンス部が、常時、関連法令および運用ガイドラインなどの遵守状況をチェックし、運用の信頼性・安定性の確保を図ります。

## 2 事業の内容及び営業の概況

事業の内容及び営業の概況については、該当事項が以下の内容に更新されます。

事業の内容	「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに、「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務を行っています。												
運用する投資信託財産の合計純資産総額	(平成27年6月30日現在) <table border="1"> <thead> <tr> <th>基本的性格</th> <th>ファンド数</th> <th>純資産総額(単位：百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>株式投資信託</td> <td>74</td> <td>799,007</td> </tr> <tr> <td>公社債投資信託</td> <td>1</td> <td>1,857</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>75</td> <td>800,864</td> </tr> </tbody> </table> <p>* ファンド数および純資産総額は、親投資信託を除きます。</p>	基本的性格	ファンド数	純資産総額(単位：百万円)	株式投資信託	74	799,007	公社債投資信託	1	1,857	合計	75	800,864
基本的性格	ファンド数	純資産総額(単位：百万円)											
株式投資信託	74	799,007											
公社債投資信託	1	1,857											
合計	75	800,864											

[前へ](#) [次へ](#)

### 3 委託会社等の経理状況

委託会社等の経理状況については、該当事項が以下の内容に更新されます。

1. 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という。）ならびに同規則第2条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）に基づいて作成しております。

なお、財務諸表の記載金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

2. 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当事業年度（自平成26年4月1日至平成27年3月31日）の財務諸表について、あらた監査法人により監査を受けております。

なお、従来、当社が監査証明を受けているあらた監査法人は、平成27年7月1日に名称を変更し、PwCあらた監査法人となりました。

## 1. 財務諸表

## (1) 貸借対照表

(単位：千円)

科目	前事業年度 (平成26年3月31日)		当事業年度 (平成27年3月31日)	
	内訳	金額	内訳	金額
(資産の部)				
流動資産				
預金		2,159,580		2,122,128
前払費用		60,937		60,733
未収入金		286,142		353,158
未収委託者報酬		431,090		465,641
未収運用受託報酬		702,839		531,916
未収投資助言報酬		1,661		2,169
未収収益		-		1,000
短期貸付金	1	-		1,500,000
繰延税金資産		127,246		407,651
その他の流動資産		6,434		909
流動資産計		3,775,933		5,445,307
固定資産				
有形固定資産	2			
建物附属設備		166,402	137,890	
器具備品		69,588	58,142	196,032
無形固定資産				
ソフトウェア		21,522	12,414	
ソフトウェア仮勘定		-	2,846	
電話加入権		3,972	3,972	
のれん		405,901	380,923	
顧客関連資産		2,175,819	2,041,923	2,442,079
投資その他の資産				
投資有価証券		6,225	15,121	
差入保証金		356,705	360,412	
繰延税金資産		35,609	-	
その他の投資		1,948	1,653	377,187
固定資産計		3,243,695		3,015,299
資産合計		7,019,629		8,460,607



科目	前事業年度 (平成26年3月31日)		当事業年度 (平成27年3月31日)	
	内訳	金額	内訳	金額
(負債の部)				
流動負債				
預り金		56,291		55,198
未払金				
未払収益分配金	20		20	
未払償還金	33,774		33,774	
未払手数料	145,745		144,687	
その他の未払金	234,880	414,420	362,945	541,427
未払費用		181,259		149,162
未払法人税等		63,189		99,109
未払消費税等		39,263		122,371
賞与引当金		170,391		217,562
その他の流動負債		56,415		11,964
流動負債計		981,231		1,196,796
固定負債				
長期預り金		121,670		121,460
退職給付引当金		557,980		463,882
役員退職慰労引当金		58,149		50,401
資産除去債務		64,515		64,741
固定負債計		802,316		700,485
負債合計		1,783,547		1,897,282
(純資産の部)				
株主資本				
資本金		4,000,000		4,000,000
資本剰余金				
資本準備金	1,406,953		1,406,953	
資本剰余金合計		1,406,953		1,406,953
利益剰余金				
その他利益剰余金				
繰越利益剰余金	171,343		1,154,443	
利益剰余金合計		171,343		1,154,443
株主資本合計		5,235,610		6,561,396
評価・換算差額等				
その他有価証券評価差額金		471		1,928
評価・換算差額等合計		471		1,928
純資産合計		5,236,081		6,563,324
負債・純資産合計		7,019,629		8,460,607

## (2)損益計算書

(単位：千円)

科目	前事業年度 (自 平成 25年 4月 1日 至 平成 26年 3月31日)		当事業年度 (自 平成 26年 4月 1日 至 平成 27年 3月31日)	
	内訳	金額	内訳	金額
営業収益				
委託者報酬		2,372,835		3,661,088
運用受託報酬		2,513,948		2,530,401
投資助言報酬		18,333		25,764
その他営業収益		2,137,076		2,818,388
営業収益計		7,042,193		9,035,643
営業費用				
支払手数料		894,463		1,524,139
広告宣伝費		10,823		68,478
公告費		1,155		3,457
調査費				
調査費	271,167		241,920	
委託調査費	644,490		877,759	
図書費	3,811	919,469	3,264	1,122,944
委託計算費		210,664		238,086
営業雑経費				
通信費	21,179		20,461	
印刷費	46,684		59,279	
協会費	7,754	75,618	9,498	89,239
営業費用計		2,112,193		3,046,347
一般管理費				
給料				
役員報酬	167,606		108,016	
給料・手当	1,369,852		1,423,926	
賞与	865,839	2,403,298	1,055,695	2,587,639
交際費		22,683		31,716
寄付金		1,100		1,176
旅費交通費		76,538		92,803
租税公課		37,680		43,510
不動産賃借料		263,544		274,477
退職給付費用		189,626		169,918
役員退職慰労引当金繰入額		20,806		13,295
賞与引当金繰入額		170,391		217,562
減価償却費		221,083		213,171
福利厚生費		203,841		215,713
諸経費		789,340		931,039
一般管理費計		4,399,934		4,792,024
営業利益		530,065		1,197,271

科目	前事業年度 (自 平成 25年 4月 1日 至 平成 26年 3月31日)		当事業年度 (自 平成 26年 4月 1日 至 平成 27年 3月31日)	
	内訳	金額	内訳	金額
営業外収益				
受取利息		158		1,391
保険配当金		3,269		3,559
雑益		-		268
時効成立分配金償還金		7,005		-
貸倒引当金戻入		480		-
営業外収益計		10,914		5,219
営業外費用				
為替換算差損		15,859		7,866
固定資産除却損		1,003		135
雑損		111		-
営業外費用計		16,974		8,001
経常利益		524,004		1,194,489
税引前当期純利益		524,004		1,194,489
法人税、住民税及び事業税		55,275		114,422
法人税等調整額		34,344		245,718
法人税等計		89,619		131,296
当期純利益		434,384		1,325,786

## (3)株主資本等変動計算書

前事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本							株主資本 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本 準備金	その他 資本剰 余金	資本 剰余金 合計	利益 準備金	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計	
当期首残高	4,000,000	1,406,953	-	1,406,953	-	605,728	605,728	4,801,225
当期変動額								
当期純利益						434,384	434,384	434,384
株主資本以外の 項目の当期の 変動額 (純額)								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	434,384	434,384	434,384
当期末残高	4,000,000	1,406,953	-	1,406,953	-	171,343	171,343	5,235,610

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	79	79	4,801,304
当期変動額			
当期純利益			434,384
株主資本以外の 項目の当期の変 動額 (純額)	392	392	392
当期変動額合計	392	392	434,777
当期末残高	471	471	5,236,081

当事業年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本							株主資本 合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本 準備金	その他 資本剰 余金	資本 剰余金合計	利益 準備金	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計	
当期首残高	4,000,000	1,406,953	-	1,406,953	-	171,343	171,343	5,235,610
当期変動額								
当期純利益						1,325,786	1,325,786	1,325,786
株主資本以外の 項目の当期 の変動額 (純額)								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	1,325,786	1,325,786	1,325,786
当期末残高	4,000,000	1,406,953	-	1,406,953	-	1,154,443	1,154,443	6,561,396

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	471	471	5,236,081
当期変動額			
当期純利益			1,325,786
株主資本以外の 項目の当期の変 動額 (純額)	1,456	1,456	1,456
当期変動額合計	1,456	1,456	1,327,243
当期末残高	1,928	1,928	6,563,324

（重要な会計方針）

1．有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）

2．固定資産の減価償却の方法

（1）有形固定資産

定率法を採用しております。ただし、資産除去債務に係る建物附属設備については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物附属設備 5～18年

器具備品 4～20年

（2）無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、主な償却年数は20年であります。

ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

3．引当金の計上基準

（1）貸倒引当金

一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。なお、当事業年度末に計上すべき貸倒引当金はありません。

（2）賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。

（3）退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、簡便法により、当事業年度末における自己都合退職による要支給額を計上しております。

（追加情報）

また、当社は平成26年4月に退職一時金制度の一部について確定拠出年金制度へ移行し、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」（企業会計基準適用指針第1号）を適用しております。本移行に伴う損益に与える影響額はございません。

（4）役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づき、当事業年度末における要支給額を計上しております。

4．外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、当事業年度末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は為替換算差損として処理しております。

5．その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜き方式によっております。

## 「注記事項」

## (貸借対照表関係)

## 1 関係会社に対する資産及び負債

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれているものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
短期貸付金	-	1,500,000千円

## 2 有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
有形固定資産の減価償却累計額	149,669千円	194,358千円

## (株主資本等変動計算書関係)

前事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

## 1 発行済株式に関する事項

株式の種類	前事業年度期首	増加	減少	前事業年度末
普通株式（株）	40,000	-	-	40,000

当事業年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

## 1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式（株）	40,000	-	-	40,000

## (リース取引関係)

## 1 オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
1年内	207,226千円	207,226千円
1年超	293,571千円	86,344千円
合計	500,798千円	293,571千円

なお、オペレーティング・リース取引の内容は、不動産賃借によるものであります。

## （金融商品関係）

## 1. 金融商品の状況に関する事項

## （1）金融商品に対する取組方針

当社は、主に第2種金融商品取引業（平成27年3月に当該登録を廃止しております）、投資助言・代理業及び投資運用業を行っており、資金計画に照らして、必要な資金（主にグループ本社より資本増資）を調達しております。デリバティブ等の投機的な取引は行わない方針であります。また、資金の運用に関しては、グループの方針に基づいて貸付を行っております。

## （2）金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

国内の未収入金に関しては、顧客の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されており、国外拠点に対する外貨建ての債権債務に関しては、各月末から次月精算までの短期為替変動によるリスクに晒されております。また、投資有価証券は、主に投資信託であり、当社の投資信託設定のための小額資金投資で売買目的ではありません。未収入金等については、定期的に残高、期日を適切に把握する体制を整えております。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価、及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。

前事業年度（平成26年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表 計上額(*)	時価(*)	差額
(1) 預金	2,159,580	2,159,580	-
(2) 未収入金	286,142	286,142	-
(3) 未収委託者報酬	431,090	431,090	-
(4) 未収運用受託報酬	702,839	702,839	-
(5) 未収投資助言報酬	1,661	1,661	-
(6) 投資有価証券 其他有価証券	6,225	6,225	-
(7) 差入保証金	356,705	355,357	1,347
資産計	3,944,246	3,942,898	1,347
(1) 預り金	(56,291)	(56,291)	-
(2) 未払収益分配金	(20)	(20)	-
(3) 未払償還金	(33,774)	(33,774)	-
(4) 未払手数料	(145,745)	(145,745)	-
(5) その他の未払金	(234,880)	(234,880)	-
(6) 長期預り金	(121,670)	(121,198)	471
負債計	(592,380)	(591,908)	471

(\*) 負債に計上されているものについては、（ ）で示しています。



当事業年度（平成27年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表 計上額(*)	時価(*)	差額
(1)預金	2,122,128	2,122,128	-
(2)未収入金	353,158	353,158	-
(3)未収委託者報酬	465,641	465,641	-
(4)未収運用受託報酬	531,916	531,916	-
(5)未収投資助言報酬	2,169	2,169	-
(6)未収収益	1,000	1,000	-
(7)短期貸付金	1,500,000	1,500,000	-
(8)投資有価証券 その他有価証券	15,121	15,121	-
(9)差入保証金	360,412	359,376	1,036
資産計	5,351,548	5,350,511	1,036
(1)預り金	(55,198)	(55,198)	-
(2)未払収益分配金	(20)	(20)	-
(3)未払償還金	(33,774)	(33,774)	-
(4)未払手数料	(144,687)	(144,687)	-
(5)その他の未払金	(362,945)	(362,945)	-
(6)長期預り金	(121,460)	(121,097)	362
負債計	(718,086)	(717,724)	362

(\*) 負債に計上されているものについては、（ ）で示しています。

(注1) 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資産(1)預金 (2)未収入金 (3)未収委託者報酬 (4)未収運用受託報酬  
(5)未収投資助言報酬 (6)未収収益 (7)短期貸付金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから当該帳簿価額によっております。

(8)投資有価証券

基準価額を基に算出しております。

(9)差入保証金

返還されるまでの残存期間に応じた日本円のスワップカーブにおける利回りで割り引いた現在価値により算定しております。

負債

(1)預り金 (2)未払収益分配金 (3)未払償還金 (4)未払手数料 (5)その他の未払金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから当該帳簿価額によっております。

(6)長期預り金

返還するまでの残存期間に応じた日本円のスワップカーブにおける利回りで割り引いた現在価値により算定しております。

## (注2) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度（平成26年3月31日）

(単位：千円)

	1年以内	1年超 10年以内	10年超
(1)預金	2,159,580	-	-
(2)未収入金	286,142	-	-
(3)未収委託者報酬	431,090	-	-
(4)未収運用受託報酬	702,839	-	-
(5)未収投資助言報酬	1,661	-	-
(6)差入保証金	-	356,705	-
合計	3,581,315	356,705	-

当事業年度（平成27年3月31日）

(単位：千円)

	1年以内	1年超 10年以内	10年超
(1)預金	2,122,128	-	-
(2)未収入金	353,158	-	-
(3)未収委託者報酬	465,641	-	-
(4)未収運用受託報酬	531,916	-	-
(5)未収投資助言報酬	2,169	-	-
(6)未収収益	1,000	-	-
(7)短期貸付金	1,500,000	-	-
(8)差入保証金	-	360,412	-
合計	4,976,014	360,412	-

## （有価証券関係）

## その他有価証券

前事業年度（平成26年3月31日）

	取得原価 (千円)	貸借対照表日における 貸借対照表計上額 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が取得原価 を超えるもの			
株式	-	-	-
債券	-	-	-
その他	5,605	6,225	620
小計	5,605	6,225	620
貸借対照表計上額が取得原価 を超えないもの			
株式	-	-	-
債券	-	-	-
その他	-	-	-
小計	-	-	-
合計	5,605	6,225	620

当事業年度（平成27年3月31日）

	取得原価 (千円)	貸借対照表日における 貸借対照表計上額 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が取得原価 を超えるもの			
株式	-	-	-
債券	-	-	-
その他	12,271	15,121	2,850
小計	12,271	15,121	2,850
貸借対照表計上額が取得原価 を超えないもの			
株式	-	-	-
債券	-	-	-
その他	-	-	-
小計	-	-	-
合計	12,271	15,121	2,850

## (退職給付関係)

前事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

## 1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、従業員の退職給付に充てるため、非積立型の確定給付型の制度として退職一時金制度を採用しており、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

## 2. 簡便法を適用した確定給付制度

## (1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)
退職給付引当金の期首残高	553,089
退職給付費用	189,626
退職給付の支払額	184,734
退職給付引当金の期末残高	557,980

## (2) 退職給付に関連する損益

	前事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
簡便法で計算した退職給付費用	189,626

当事業年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

## 1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、従業員の退職給付に充てるため、非積立型の確定給付型の制度として退職一時金制度を採用しており、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。また、当社は平成26年4月に退職一時金制度の一部について確定拠出年金制度へ移行しました。

## 2. 簡便法を適用した確定給付制度

## (1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

(単位：千円)

	当事業年度 (平成27年3月31日)
退職給付引当金の期首残高	557,980
退職給付費用	137,761
退職給付の支払額	85,791
確定拠出年金制度への移行に伴う減少額	62,824
その他の未払金への振替額	83,243
退職給付引当金の期末残高	463,882

## (2) 退職給付に関連する損益

(単位：千円)

	当事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
簡便法で計算した退職給付費用	137,761

## 3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は当事業年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)において、32,156千円であります。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当事業年度 (平成27年3月31日)
<b>繰延税金資産</b>		
<b>(1)流動資産</b>		
賞与引当金	60,727	72,013
未払費用	40,352	29,178
未払退職金	7,235	35,963
株式報酬費用	10,086	7,881
その他	18,709	9,628
繰越欠損金	132,850	264,973
計	269,961	419,638
<b>(2)固定資産</b>		
退職給付引当金	198,864	150,019
役員退職給付引当金	20,724	16,299
資産調整勘定	35,609	-
資産除去債務	22,993	20,937
繰越欠損金	674,107	85,409
繰延税金負債(固定)との相殺	6,897	7,570
計	945,401	265,095
繰延税金資産小計	1,215,363	684,733
評価性引当額	1,052,507	277,082
繰延税金資産合計	162,855	407,651
<b>繰延税金負債</b>		
<b>(1)固定負債</b>		
資産除去債務	6,897	6,648
その他有価証券評価差額金	-	921
繰延税金資産(固定)との相殺	6,897	7,570
繰延税金負債合計	-	-
繰延税金資産純額	162,855	407,651

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前事業年度（平成26年3月31日）

法定実効税率	38.0%
（調整）	
交際費等永久に損金に算入されない項目	14.9%
住民税均等割等	0.7%
評価性引当額の増減額	54.1%
税率変更による影響額	2.0%
その他	15.3%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	17.0%

当事業年度（平成27年3月31日）

法定実効税率	35.6%
（調整）	
交際費等永久に損金に算入されない項目	8.6%
住民税均等割等	0.3%
評価性引当額の増減額	62.3%
税率変更による影響額	2.6%
その他	4.1%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	10.9%

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

前事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

「所得税法等の一部を改正する法律」（平成26年法律第10号）が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課されないこととなりました。これに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異について、前事業年度の38.0%から35.6%に変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）が10,829千円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が10,829千円増加しております。

当事業年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

「所得税法等の一部を改正する法律」（平成27年法律第9号）、「地方税法等の一部を改正する法律」（平成27年法律第2号）が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率等の引下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の35.6%から平成27年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については33.1%に、平成28年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については、32.3%に変更されております。その結果、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）が31,282千円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が31,282千円増加しております。

## （資産除去債務関係）

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

## （１）当該資産除去債務の概要

建物の不動産賃貸借取引に伴う原状回復義務等であります。

## （２）当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から5年と見積り、割引率は0.349%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

## （３）当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
期首残高	64,291千円	64,515千円
時の経過による調整額	224千円	225千円
期末残高	64,515千円	64,741千円

## （セグメント情報等）

## [セグメント情報]

前事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

当社は、投信投資顧問業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当事業年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

当社は、投信投資顧問業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## [関連情報]

前事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

## 製品及びサービスごとの情報

製品・サービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益の区分と同じであることから、製品・サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

## 地域ごとの情報

## （1）営業収益

（単位：千円）

日本	米国	欧州	その他	合計
1,869,541	2,113,551	650,340	35,924	4,669,358

（注1）営業収益は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

（注2）営業収益のうち委託者報酬に関しては、当社が運用している投資信託は大半が公募投信であり、委託者報酬を最終的に負担する受益者の情報は制度上把握しえないため、除外しております。

## （2）有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えているため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

## 主要な顧客ごとの情報

## （1）その他営業収益

（単位：千円）

顧客の氏名又は名称	その他営業収益	関連するセグメント名
Invesco Advisers, Inc.	1,823,788	投信投資顧問業

## （2）委託者報酬

委託者報酬については、制度上、顧客情報を知りえないため、記載を省略しております。

## （3）運用受託報酬

運用受託報酬については、顧客との守秘義務契約により、開示が出来ないため、記載を省略しております。



## (4) 投資助言報酬

投資助言報酬については、顧客との守秘義務契約により、開示が出来ないため、記載を省略しております。

当事業年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

## 製品及びサービスごとの情報

製品・サービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益の区分と同じであることから、製品・サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

## 地域ごとの情報

## (1) 営業収益

(単位：千円)

日本	米国	欧州	その他	合計
1,649,470	2,821,740	863,397	39,946	5,374,555

(注1) 営業収益は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(注2) 営業収益のうち委託者報酬に関しては、当社が運用している投資信託は大半が公募投信であり、委託者報酬を最終的に負担する受益者の情報は制度上把握しえないため、除外しております。

## (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えているため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

## 主要な顧客ごとの情報

## (1) その他営業収益

(単位：千円)

顧客の氏名又は名称	その他営業収益	関連するセグメント名
Invesco Advisers, Inc.	2,385,054	投信投資顧問業

## (2) 委託者報酬

委託者報酬については、制度上、顧客情報を知りえないため、記載を省略しております。

## (3) 運用受託報酬

運用受託報酬については、顧客との守秘義務契約により、開示が出来ないため、記載を省略しております。

## (4) 投資助言報酬

投資助言報酬については、顧客との守秘義務契約により、開示が出来ないため、記載を省略しております。

## [報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報]

前事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当事業年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報]

前事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当事業年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

単一セグメントであるため、記載を省略しております。

[報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報]

前事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当事業年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（関連当事者情報）

## 1. 関連当事者との取引

財務諸表提出会社と関連当事者との取引

前事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

（1）財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金	事業の内容 又は職業	議決権等の所 有(被所有)割 合(%)	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親 会 社 の 子 会 社	Invesco Advisers, Inc.	1555 Peachtree Street Atlanta, Georgia 30309, USA	6,229 米ドル	投資顧問業	なし	投資顧問契約 の再委任等	運用受託報酬 及びその他営 業収益の受取	1,852,990	未収入金	163,406
親 会 社 の 子 会 社	Invesco Global Real Estate Asia Pacific Inc.	1555 Peachtree Street Atlanta, Georgia 30309, USA	750,000 米ドル	不動産投資 業	なし	事務所の転貸	敷金の預り	-	長期預り金	121,670

（注1）取引金額、期末残高には消費税等が含まれておりません。

（注2）運用受託報酬及びその他営業収益の算定方法については、第三者による検討結果に基づいたグループ内のポリシーにより決定しております。

当事業年度（自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日）

（1）財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金	事業の内容 又は職業	議決権等の所 有(被所有)割 合(%)	関連当事者と の関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親 会 社 の 子 会 社	Invesco Advisers, Inc.	1555 Peachtree Street Atlanta, Georgia 30309, USA	6,229 米ドル	投資顧問 業	なし	投資顧問契約 の再委任等	運用受託報酬 及びその他営 業収益の受取	2,438,063	未収入金	213,753
親 会 社	Invesco Holdings Company Ltd.	Perpetual Park, Perpetual Park Drive, Henley- on-Thames, Oxfordshire, RG9 1HH, UK	84,791,962 米ドル	持株会社	間接所有 100%	資金の貸付	資金の貸付	1,500,000	短期貸付金	1,500,000

（注1）取引金額、期末残高には消費税等が含まれておりません。

（注2）運用受託報酬及びその他営業収益の算定方法については、第三者による検討結果に基づいたグループ内のポリシーにより決定しております。

（注3）資金の貸付の受取利息については、市場金利等を勘案して利率を合理的に決定しております。

2．親会社に関する注記

親会社情報

Invesco Far East Ltd.（非上場）

Invesco Holding Company Ltd.（非上場、持株会社）

Invesco Ltd.（ニューヨーク証券取引所に上場）

（1株当たり情報）

前事業年度 (自 平成 25年 4月 1日 至 平成 26年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成 26年 4月 1日 至 平成 27年 3月 31日)
1株当たり純資産額 130,902円04銭	1株当たり純資産額 164,083円11銭
1株当たり当期純利益金額 10,859円62銭	1株当たり当期純利益金額 33,144円65銭

（注）1．潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2．1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎

	前事業年度 (自 平成 25年 4月 1日 至 平成 26年 3月 31日)	当事業年度 (自 平成 26年 4月 1日 至 平成 27年 3月 31日)
当期純利益金額(千円)	434,384	1,325,786
普通株式に係る当期純利益(千円)	434,384	1,325,786
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
期中平均株式数(株)	40,000	40,000

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

[前へ](#) [次へ](#)

## 第2 その他の関係法人の概況

その他の関係法人の概況については、該当事項が以下の内容に更新されます。

### 1 名称、資本金の額及び事業の内容

#### (1) 受託会社

名称	資本金の額 (平成27年3月31日現在)	事業の内容
三菱UFJ信託銀行株式会社	324,279百万円	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。

#### (2) 販売会社

名称	資本金の額 (平成27年3月31日現在)	事業の内容
あかつき証券株式会社	2,834百万円	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
株式会社SBI証券	47,937百万円	
高木証券株式会社	11,069百万円	
西村証券株式会社	500百万円	
ひろぎんウツミ屋証券株式会社	6,100百万円	
フィデリティ証券株式会社	6,707百万円	
マネックス証券株式会社	12,200百万円	
三津井証券株式会社	558百万円	
楽天証券株式会社	7,495百万円	

### 2 関係業務の概要

受託会社	ファンドの受託会社として、投資信託財産の保管・管理・計算などを行います。 受託会社は、ファンドにかかる信託事務の一部につき、下記再信託受託会社に委託することができます。								
再信託受託会社の概要	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>名称</td> <td>日本マスタートラスト信託銀行株式会社</td> </tr> <tr> <td>資本金</td> <td>10,000百万円(平成27年3月31日現在)</td> </tr> <tr> <td>事業の内容</td> <td>銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。</td> </tr> <tr> <td>再信託の目的</td> <td>原信託契約にかかる信託事務の一部（信託財産の管理）を、原信託受託会社から再信託受託会社（日本マスタートラスト信託銀行株式会社）へ委託するため、原信託財産のすべてを再信託受託会社へ移管することを目的とします。</td> </tr> </tbody> </table>	名称	日本マスタートラスト信託銀行株式会社	資本金	10,000百万円(平成27年3月31日現在)	事業の内容	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。	再信託の目的	原信託契約にかかる信託事務の一部（信託財産の管理）を、原信託受託会社から再信託受託会社（日本マスタートラスト信託銀行株式会社）へ委託するため、原信託財産のすべてを再信託受託会社へ移管することを目的とします。
名称	日本マスタートラスト信託銀行株式会社								
資本金	10,000百万円(平成27年3月31日現在)								
事業の内容	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。								
再信託の目的	原信託契約にかかる信託事務の一部（信託財産の管理）を、原信託受託会社から再信託受託会社（日本マスタートラスト信託銀行株式会社）へ委託するため、原信託財産のすべてを再信託受託会社へ移管することを目的とします。								

販売会社	ファンドの販売会社として、受益権の募集・販売の取り扱いを行い、投資信託説明書(交付目論見書)・投資信託説明書(請求目論見書)の交付、運用報告書の交付代行、分配金・換金代金・償還金の支払いおよび分配金の再投資に関する事務などを行います。
------	---

### 3 資本関係

受託会社	該当事項はありません。
販売会社	該当事項はありません。

[前へ](#)

## 独立監査人の監査報告書

平成27年5月29日

インベスコ・アセット・マネジメント株式会社

取締役会御中

### あらた監査法人

指定社員 公認会計士 鶴田 光夫  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているインベスコ・アセット・マネジメント株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第25期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、インベスコ・アセット・マネジメント株式会社の平成27年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

## 独立監査人の監査報告書

平成27年7月15日

インベスコ・アセット・マネジメント株式会社

取締役会御中

PWCあらた監査法人

指定社員 公認会計士 鶴田光夫  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているインベスコ プレミア・プラス・ファンドの平成26年11月28日から平成27年5月20日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、インベスコ プレミア・プラス・ファンドの平成27年5月20日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

インベスコ・アセット・マネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注)1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。